



赤ちゃんがはじめて熱を出す時に多いと言われている疾患です。今回は「突発性発疹」についてのお話です。

## 突発性発疹とは??



突発性発疹は2歳までにほとんどの子どもが感染するとされ、特に生後6か月～1歳半くらいの時期に罹りやすいウイルス感染症の一つです。生まれて初めての発熱が突発性発疹ということも少なくはありません。季節に関係なくかかる可能性があります。急に38～40℃の熱が3～5日ほど続いた後、熱が下がるころに前後して、赤い発疹がお腹を中心に、胸や顔など全身に現れます。

◆ 潜伏期間 約10～14日間



◆ 症状と経過

1) 発熱 突然38℃以上の高熱が出て、38～40℃の熱が3～5日ほど続きます。発熱しているときは、比較的元気です。下痢や軟便になることがあります。それ以外に目立った症状はないことが多いです。



2) 発疹 発疹は、熱が下がる前後に現れ始め、3～4日続きます。発疹の色は赤～ピンクで3～5mmくらいの細かなものです。お腹を中心に胸や背中、顔、手足など全身に現れます。その後は後を残さずにきれいに治ります。発疹に痛みはなく、痒みもあまりありません。



3) 不機嫌 発熱中は機嫌が良いことが多いですが、熱が下がり発疹が出る頃になると一転して不機嫌になることが良くあります。



4) 下痢 発熱、発疹以外の症状として、下痢や軟便になることがあります。胃腸炎などで起こる脱水症状に陥るような激しい下痢ではないことも特徴の一つです。



◆ 合併症は?

感染してから急に熱が上がるときに熱性けいれんを起こすことがあります。また、非常にまれですが、脳炎、脳症など重篤な合併症の報告があります。

◆ どうして感染するの?

生後母親から譲り受けた抗体(移行抗体)が減少していくと、赤ちゃんは様々な感染症に罹りやすくなります。突発性発疹のウイルスは、一度感染すると、その人の体内にとどまっています。そのため、過去に罹ったことがある家族の方もウイルスを持っている人がほとんどです。(4歳以上の日本人はほとんどの方が罹ったことがあると言われています。)家族の方の唾液中にウイルスが排泄されており、それに感染することで発症すると言われています。



◆ 受診するタイミング

突発性発疹は、最初に現れる症状が発熱で、熱が下がったところに発疹が現れるので、発熱しているときに診察を受けても、突発性発疹かどうかは診断できません。発熱が数日間続き、抗原検査で診断がつくような感染症が否定された場合は、血液検査をすることもありますが、血液検査でも突発性発疹ははっきりわかるわけではありません。熱が下がり、発疹の症状が現れたときに診察を受ければ突発性発疹の診断ができます。その場合でも発疹に対する治療薬はないため、経過観察をすることになります。



◆ いつから登園できる?

保育園には「解熱後24時間経過して、元気があれば」登園できるようになっています。しかし、発疹が目立ち、機嫌が悪く、下痢などの症状もあるときには無理せずに自宅で安静にして過ごすことが良いでしょう。



## 今月の絵本



クリニックの本棚にあるよ!

どうぶつえんがうちにきた! 原案-島 怜花 文と構成-きむらゆういち 絵-大島妙子

突然家に動物たちがおおぜいやってきたらどうしよう。動物は動物園で見るのが楽しいねお天気になったらみんなで見に行こうね。



## おしらせ

次回もおたのしみに～

5/25、緊急事態宣言が解除になりましたね。「やっと解除!!」と思う方、「まだ早いのでは」と思う方、両方いると思います。解除になったからと言って感染の危険性がゼロになったわけではありません。引き続き感染予防行動を意識しながら、日常生活を取り戻していけるよう、笑顔で過ごせるといいですね。

